



国民の森林・国営林

# 森林ふれあい情報

平成21年12月

第13号

中部森林管理局木曽森林環境保全ふれあいセンター

〒399-0001 長野県木曽郡木曽町福島5471-1

TEL: 0264(22)2122 FAX: 0264(21)3151

E-mail: kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

## 「森林ボランティア・NPO 連携推進会議」

10月23日(金)～24日(土)の2日間、中部森林管理局管内(富山、長野、岐阜、愛知各県)で森づくり等に係わるNPO・ボランティア団体が一堂に会して、団体等の更なる資質の向上と連携強化を図るとともに、広く一般市民の皆さんに、国民参加の森林づくりへの理解や、森林環境教育の重要性をPRすることを目的とした「森林ボランティア・NPO連携推進会議」及び関連行事を長野県松本市のアルプス公園で松本市の後援も頂き開催し、森林ボランティア団体やNPO等、16団体(49名)と局署等の職員、合わせて総勢71名の参加により開催しました。

一日目は、「松本市山と自然博物館」館長の丸山潔先生による『長野県における蝶類の動態について』と題した講演会を行い、蝶の魅力や最近増えている蝶・減っている蝶、生息環境の整備の重要性など時折、貴重な映像やデータを交えながら熱心に講演いただきました。



丸山館長による講演

二日目は、一般市民を対象に自然とのふれあいや、森の大切さや役割、自然の恵みを使った遊びや体験、また、森林ボランティア・NPO団体等の活動や取組について、理解を深めていただくこ

とを目的に、ワークショップを展開するイベント『森・ふれあいフェスタ ～自然と遊ぼう 森に学ぼう～』を開催し、多くの親子・家族連れが訪れ「ウッディ福笑い」「竹とんぼ作り」「森の??探し」「かんなくずプール」など9つのプログラムに、延べ約300名の皆さんに参加頂きました。



かんなくずプール



ウッディ福笑い

市民を迎えるスタッフの意気込みは大変強く、懇切丁寧に接する姿が印象的で、会場全体も子供達の笑顔と笑い声が飛び交い、親子・家族揃って、終始和やかに、そして元気に各プログラムを体験している姿が随所に見られ、大変活気に溢れていました。後日、県外から訪れたご家族から、感謝のメールが届くなど、目的が達成できたと感じられるイベントとなりました。

なお、開催に当たっては、森林ボランティア団体等の代表として、愛知県の「名古屋シティ・フォレスター倶楽部」、岐阜県の「裏木曾古事の森育成協議会」、長野県の「NPO法人やまぼうし自然学校」の各代表の皆さんに実行委員会に入って貰い、実施内容からイベント種目等の企画、当日の運営等全てを担って頂き開催することが出来ました。



参加者全員で

## ふれあいの森「太樹の森・赤沢」 森林整備(間伐作業)

地球緑化センターは、樹齢300年の木曾ヒノキが林立する赤沢自然休養林の奥に位置する、伊勢湾台風の風倒木跡地に植林したヒノキ林6.87haを、木曾森林管理署とふれあいの森協定を結び、その森を「太樹の森・赤沢」と名付け、毎年春・秋の2回、「山と緑の協力隊」の森林ボランティア作業として「未来に向かって樹齢300年の森を育てよう」と、隊員及び一般参加者を募集して、平成12年度から森林整備を行っています。

秋の森林整備は、10月3日(土)～4日(日)の2日間、木曾川下流域の岐阜、愛知県をはじめ、東京、埼玉県などの関東圏、京都、大阪府などの関西圏及び四国の徳島県から隊員及び一般ボランティア26名が参加して実施しました。当ふれあいセンターからも、毎回、作業や安全面の指導を行うため参加しています。

開会式後森林鉄道に乗車、丸山渡停留所まで1キロ余りの乗車を堪能の後、準備体操を行い徒歩で現地に向いました。途中、木曾ヒノキと天然サワラの2本立ちの場所で、樹木の特徴を学び、「太樹の森・赤沢」の看板の前で記念撮影など、赤沢の森の森林浴を楽しみながら作業現地に到着しました。



参加者全員で記念撮影

当ふれあいセンターで伐採方法の実演指導を行い、4班に分かれて約2時間の間伐作業を開始しました。班毎に「倒れるよ～ 気をつけて～」とかけ声が飛び交う作業風景。時には、混んでい

るのでかかり木状態になり倒れない木も発生しましたが、作業経験者である班長の指揮でチルホールやロープを駆使して安全にかかり木処理していました。初めて参加した方も班長等の指導で伐倒を体験し、パキパキと音を立てて木が倒れていくのを見て達成感と快感を味わっていました。



倒れるよ～

## 実のなる大樹調査

今年度からの新規事業として、当ふれあいセンターの活動拠点でもある城山国有林の「城山史跡の森」において、生物多様性の観点から、野生動物の餌となる実のなる広葉樹大径木(おおむね胸高直径50cm以上)の分布を調査すると共に、後継樹育成の条件整備等の検討を実施するため、初年度として、遊歩道沿線でクリ、トチ、ブナなど35本を選定しました。

今後は、樹名板、パンフレット、案内看板等の作成により、広くPRしていくとともに、後継樹育成に向けて取り組んでいくこととしています。



権現滝上のトチ

カラ沢のブナ